

みなみあしやはま 南芦屋浜団地（兵庫県営、芦屋市営）

【応募者】 兵庫県、芦屋市、独立行政法人都市再生機構西日本支社支社、現代計画研究所 江川直樹
連絡先：関西大学 環境都市工学部 建築学科（江川直樹）／〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL(06) 6368-0893 / FAX(06) 6368-0893

【地域性への配慮事項】

六甲山を背景とする阪神間臨海部の環境・景観特性に配慮し、周辺整備と一体となつて、良好な臨海市街地形成に寄与する（環境骨格としての）公営集合住宅団地

【作品の概要】

南芦屋浜団地（公営）は、阪神・淡路大震災対応の震災復興公営住宅団地（市営住宅440戸、県営住宅414戸）で、当時、まさに完了寸前であった埋め立て地の土地利用計画を一部変更するかたちで計画され実施された。従来の芦屋のイメージを引き継ぎつつ、21世紀の芦屋を代表する海浜住宅地としてのイメージを形成すべく、短期間の中での優れた計画・実施が求められた。敷地は南芦屋浜地区の入り口かつ中心部にあり、人々は公営住宅地内を横断してアクセスする。公営住宅は、高さの異なる分棟配置とし、海と、背景の六甲山の両方に開いた配置とし、海側を高い搭状として北側を低くし、将来の海浜住宅市街地、およびマリナーやマリナーにアクセスする海からの優れた景観を形成しつつ、公営住宅住戸からの眺望も確保する形態としている。また、公営住宅エリア自体もまちに開いた環境骨格としての構成となっている。高齢者や弱

者が入居の中心となる公営住宅がまちの中心に在り、商業施設やマリナー、（高級）専用マリナー付住宅などのにぎわいの中心に住むという、わが国ではきわめて珍しい計画が立案・実施された。

【作品または活動の特色】

公営住宅が核となり、マリナーや商業施設と一体となって新しい海浜住宅市街地の環境の骨格を形成し、六甲山を背景とする美しい住宅地景観を形成するという、他に例を見ない業績は、周辺の整備の進んだ今、広く多くの市民の共感を得ている。本公営住宅は、震災復興という緊急事態の対応のため、周辺の未整備な、震災から3年後の1998年4月に竣工しているが、その後のマリナー、住宅地整備、2010年2月の複数の商業施設の竣工により、広く市民に開かれた海浜住宅市街地として、地区内外の多くの人々が日常的に訪れる地域となり、その環境骨格としての優れた成果が広く認知された。震災復興という緊急の状況の中でも、将来を見据えた優れた計画が立案・実施されたことが今、顕現している。



地域空間形成のイメージ

六甲山
山麓の傾斜地形の住宅地
臨海部に開いた市街地
臨海部
埋立型新都市

と、阪神間の地形を代表する芦屋市の原地形は、場所場所の個性が豊かである。また、それが魅力的である。

南芦屋浜震災復興公営住宅においては、芦屋地域の持つ様々な魅力ある場所の一つとして、埋立型新都市の持つ個性としての特性を最大限生かしながら、居住環境を創生することが望まれる。

① 開いた眺望
② 眺望を創生する
③ 眺望を創生する
④ 眺望を創生する
⑤ 眺望を創生する

芦屋の環境構造図

地区空間形成のイメージ

当敷地は、宮田という地域の中心軸を受け、マリナーのセンター施設の核へとつながる地域レベルのランドスケープポイントに位置している。

① 地区の居住環境の中心的骨格として、可解で力強い環境構造を創出する。

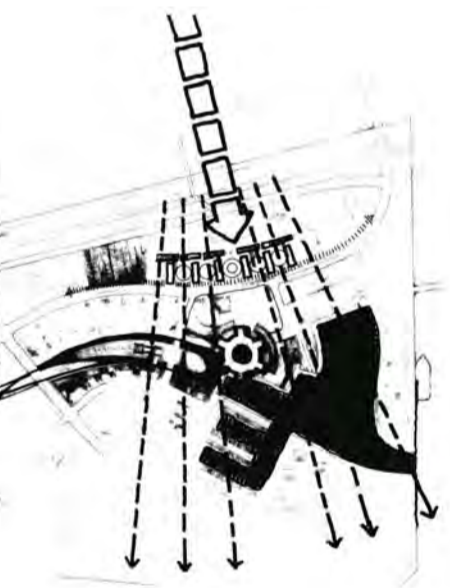
② マリナー周辺の、イメージ形成に誘導する。印象的でリズム感のある、都市的な景観を創出する。

③ 東西につながる、緑のプロムナードの軸を引き継ぎ、リニヤにオープンスペースを創出する。

④ マリナーを眺めることのできる住戸を、多くとれる配置形態を模索する。

⑤ マリナーから六甲山への眺望、空間のつながりを生かすため、東西に低く、南北に高い配置を模索する。

南芦屋浜の構造的な位置図



1. 山から海へ、空間をつなぐ

山から海への眺望を創生し、道を導く。
六甲山、市街地、アスファルト、マリナーと、連続性を保ちつつ、一線を貫き、風通しを良くし、開かれた空間をつくる。

2. 空地空間を豊かにつなぐ

他のグリーンネットワークに引き合い、展開する。
緑のネットワークに引き合い、展開する。
大きな空地、緑地の広がり、リニヤの交差、高層、スキマ、注...

5. 日照環境を合理的に確保する。

日照環境を合理的に確保する。

6. 「高」「低」「空」の良い配分構成

高層（H）=アーバンスケールの景観、マリナーからの眺望に資する。
中層（M）=人にやさしい開放的な空間の形成。
低層（L）=開放的なオープンスペースの創出。

環境構造的な配置

3. 分かりやすくシステムチックな構造

環境構造的な構造。建築、工務の合理性に資するから、構造により、人間に良好な居住環境を創出する。

4. 「マリナー型環境構造」

高層（H）=アーバンスケールの景観、マリナーからの眺望に資する。
中層（M）=人にやさしい開放的な空間の形成。
低層（L）=開放的なオープンスペースの創出。

7. 多様なスキマ、路地、街路をつくる。

分棟配置により、道路スケールの適正化、豊かなスキマをつくる。
中層（M）=人にやさしい開放的な空間の形成。
低層（L）=開放的なオープンスペースの創出。

8. 環境構造としての駐車場配置

駐車スペースの配置はオープンスペースの創出。
北側に建築的ファサード形成。

現在（2010年8月）の南芦屋海浜住宅市街地の風景（マリナーと一体となった公営住宅、六甲への抜けが効果的）



まちに開いた公営住宅



公営住宅の間を通り抜けて街にアクセスする人のアプローチ



1998の現況



陽に光るEVシャフト 既成市街地からの風景



まちに開いた配地構成 北通りからの風景



広く市民が訪れる商業施設をのぞく公営住宅



2007年の上空からの写真（現在では公営住宅南側に商業施設群が竣工している）